

東京芸術祭2024／芸術オータムセレクション

チェルフिटチュ × 藤倉大 with アンサンブル・ノマド

リビングルームのメタモルフォーシス

2024年9月20日(金)～29日(日) 東京芸術劇場シアターイースト



宣伝美術：岡崎真理子（REFLECTA, Inc.）

画像一式：<https://x.gd/3zHPU>

**これは演劇の上演か、音楽の演奏会か——
フィクショナルな劇空間に音の粒子が混ざり合う“音楽劇”
圧倒的なスケールの世界が観客の目前に現れる**

ウィーン芸術週間からの委嘱により昨年5月に世界初演を迎えた本作が、**ついに日本初演！**
日本初演となる東京公演では、東京芸術劇場「ボンクリ・フェス」の常連で藤倉からの信頼も厚い**アンサンブル・ノマド**が出演する。

俳優と演奏家が舞台空間を共有し、演劇と音楽のパフォーマンスを舞台上に並置することにより、双方が溶け合った先にあるフィクショナルな空間を生み出すことを目指した作品。

賃貸契約の一方的な破棄により、住む家をいきなり追い出されそうになる家族の物語。しかし人智の及ばない強大な力が見え隠れし始め、その問題自体が舞台上から消え去り——人間の世界を圧倒する存在が上演を支配し、まったく新しい世界が舞台上に立ち現れる。

俳優たちはナラティブとは別の基準によって作られた振付を遂行し、次第に変態していく。音楽家もまた、楽譜に書き込まれた多彩な技法を用いて音楽を変容させる。

6名の俳優の発する言葉と7名からなるアンサンブルの演奏とが響き合い、物語と音が溶け合っていくとき、計13のサウンドが互いに影響し合いながら、どのような変化を生むのか。

新たなコラボレーションによる“音楽劇”に、乞うご期待！

チェルフिटチュ

お問い合わせ

株式会社precog（プリコグ） 担当：水野恵美、武田侑子、遠藤七海

MAIL：chelfitschticket@gmail.com TEL：03-3528-9713（平日10:00～17:00）

東京公演 公演概要

日本初演となる東京公演は東京芸術祭2024、芸劇オータムセクションとして上演されます。

藤倉大は東京芸術劇場にて開催されているBorn Creative Festival（ボンクリ・フェス）のアーティストディレクターを務め、演奏のアンサンブル・ノマドもボンクリ・フェスの常連です。また、岡田利規は2021年に同劇場で上演された歌劇『夕鶴』で初のオペラ演出を務めました。両者にとってゆかりのある東京芸術劇場での、新たなコラボレーションによる”音楽劇”にご期待ください。

アフタートークゲスト決定

9/22(日祝)14:00公演終了後には写真家・川内倫子さんをお招きし、アフタートークを開催。

『リビングルームのメタモルフォーシス』のクリエイション過程では、人間中心主義を疑うというコンセプトのもと、人間的な世界を捉える態度に変容を及ぼすそのモードづくり/視点獲得のために川内さんの写真を参照していました。アフタートークでは岡田利規とともに、クリエイション時の話にも触れながら、川内さんの視点も交えて、世界を捉える方法を考えていきます。

川内倫子

1972年、滋賀県生まれ。2002年に『うたたね』『花火』で第27回木村伊兵衛写真真賞受賞。2023年にソニーワールドフォトグラフィーアワードのOutstanding Contribution to Photography（特別功労賞）を受賞など。国内外で数多くの展覧会を行う。主な著作に『Illuminance』（2011年）、『あめつち』（2013年）、『Halo』（2017年）など。近刊に写真集『やまなみ』『いまここ』（谷川俊太郎との共著）がある。2022～2023年に東京オペラシティ アートギャラリーでと滋賀県立美術館で個展「川内倫子：M/E 球体の上無限の連なり」を開催した。

関連企画

・東京芸術祭ひろば

期間：2024年9月19日（木）～9月29日（日） 12:00～20:00 ※9月24日（火）休み

場所：東京芸術劇場 ロワー広場

芸術祭のプログラムの魅力と出会うインフォメーションスペース。ここでは上演作品の情報や見どころを展示形式で紹介するほか、トークイベントやワークショップなどコンテンツが盛り沢山！

『リビングルームのメタモルフォーシス』もクリエイションや上演の記録など観劇体験をより深める展示を行います。

・東京芸術祭ひろば－トランジット キッチン

期間：2024年9月19日（木）～9月29日（日） 11:30～19:00 ※9月24日（火）、25（水）休み

場所：東京芸術劇場 劇場前広場

東京芸術祭のインフォメーションスペースに加え、フード、音楽、パフォーマンス、アートなど様々なジャンルのアーティストが演目からインスパイアされて行う表現を楽しむことができます。

『リビングルームのメタモルフォーシス』からインスパイアされた「グリルチキン×夏野菜マリネサンド」の販売もごさいます。

『リビングルームのメタモルフォーシス』 作品概要

本作は、毎年5～6月にオーストリアの首都・ウィーンで開催されるヨーロッパ最大級の芸術祭 ウィーン芸術週間（Wiener Festwochen）からチェルフィッチュに、藤倉大とクラングフォルム・ウィーンとのコラボレーションによる音楽劇の新作の委嘱があったことからはじまりました。ウィーン芸術週間はこれまで、現代音楽アンサンブルのクラングフォルム・ウィーンとのコラボレーション企画として、フランスを代表する演出家・ビジュアルアーティストのフィリップ・ケーヌや、世界的な注目を集める振付家マレーネ・モンテイロ・フレイタスなどに新作を委嘱。2023年はチェルフィッチュが選ばれ、藤倉大とのコラボレーションの実現へと至りました。

2021年から始まったクリエイション過程では、演劇と音楽の新たな関係を探るべく、戯曲の執筆と音楽の作曲が同時進行で行われました。2021年11月に開催した東京でのワークインプログレス公演では、クラングフォルム・ウィーンの映像出演による試演と、アンサンブル・ノマドの生演奏による試演の両方を実施し、今後の作品構想を深めていく機会となりました。その後、楽曲制作と戯曲執筆のためのワークショップ、最終クリエイションを経て、2年間の創作プロセスの集大成として、2023年5月にウィーンで世界初演、その後、ヘレンハウゼン芸術祭 / KunstFestSpiele Herrenhausen（ドイツ・ハノーファー）とオランダ・フェスティバル / Holland Festival（オランダ・アムステルダム）でのツアー上演を実施しました。

そして、世界初演から約1年が経った今、2021年からのクリエイションワークショップをともにしたアンサンブル・ノマドとともに、満を持して日本初演を東京芸術劇場で迎えます。

『リビングルームのメタモルフォーシス』 創作過程

2021年7月 クリエーションワークショップ

クリエイションワークショップは、東京の稽古場とロンドン在住の藤倉をオンラインで繋いで実施。俳優がテキストを読む様子を藤倉がリアルタイムで視聴し、その場で音楽を試しに流し、さらに岡田がテキストを書き換えていく、そしてまた俳優がテキストを読む……という作業を、10日間に渡って重ねていくことで、新たな方法論のかげらを見つけていきました。



2021年11月 ワークインプログレス公演

タワーホール船堀（東京）で開催されたワークインプログレス公演では、ある一つの場面の上演を通して方法論を検討・共有し、創作の基盤をつくりあげていく過程を公開しました。ワークショップ同様、藤倉はロンドンからオンラインで参加、同じく新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で来日が叶わなかったクラングフォルム・ウィーンはチェルフィッチュの〈映像演劇〉の手法を用いて出演。さらにアンサンブル・ノマドも招き、生演奏との共演も行ないました。生演奏が俳優のパフォーマンスに与える影響が顕著に現れ、音楽とパフォーマンスの可能性が広がる機会となりました。

ワークインプログレス公演時の様子：

- 公演詳細 <https://chelfitsch.net/activity/2021/10/chel-fujikura-wip.html>
- 記録映像配信中
英語・仏語・独語字幕（国際交流基金STAGE BEYOND BORDERS）<https://youtu.be/Km3D9Pss34?si=Jz7MsuSvnfG3aOdM>
音声ガイドつき（THEATRE for ALL）https://theatreforall.net/movie/chelfitsch_work-in-progress_wien
- ステージナタリー特集記事（岡田+俳優インタビュー）https://natalie.mu/stage/pp/chel_fujikura
- ONTOMOレポート（岡田+藤倉インタビュー）<https://ontomo-mag.com/article/report/chelfitsch-okada-fujikura>



© 加藤和也

2022年4～11月 クリエーションワークショップ

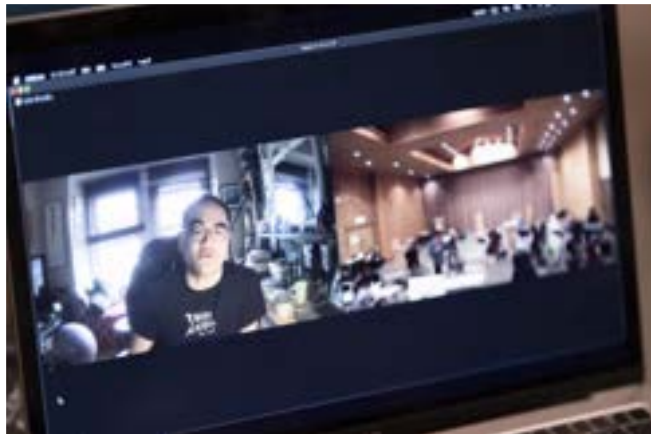
2023年3月からのクリエイションに先立ち、藤倉の楽譜づくりおよび岡田のテキスト執筆のために、20回超のワークショップを実施。2021年のクリエイションワークショップ同様、藤倉はオンラインで参加。岡田がテキストを執筆し、それを俳優が動きを交えながら発する姿を視聴した藤倉が、ロンドンの自宅でその場で即興で楽曲を制作し試す、そして岡田がテキストをブラッシュアップする、という試行錯誤が重ねられ、楽譜および脚本第一稿の完成に至りました。



『リビングルームのメタモルフォーシス』 創作過程

2023年3～5月 最終クリエーション

2022年までのプロセスで完成した楽曲および脚本を元に、いよいよ舞台作品を立ち上げるための最終クリエーションへ。演劇と音楽のパフォーマンスを舞台上に並置するための方法として、俳優は“振付のテキスト”を用いて物語とは別のレイヤーで振付を遂行する方法を模索。稽古場に美術・衣裳・音響・照明・演出部・制作スタッフが、そして時にはオンラインで藤倉と、生演奏との試演のためにアンサンブル・ノマドも集い、世界初演をウィーンで迎えるための最終準備を日本で行いました。



© 前澤秀登

2023年5月 世界初演、ツアー

現地テクニカルスタッフとの協働で照明・音響・舞台も作り込み、初めてクラングフォルム・ウィーンの奏者とも現地で合流し、3日間の合わせ稽古を経て、世界初演を迎えました。ウィーンでの世界初演後、共同製作パートナーのヘレンハウゼン芸術祭とオランダ・フェスティバルでも上演。ブラックボックス、ホッケー場の仮設劇場、音楽ホールと、3つの異なる劇場を巡りました。



主な掲載記事（日本語）：

日本経済新聞（2023年6月13日）

演劇と音楽の境界融解「ウィーン芸術週間」岡田利規と藤倉大が共作 *有料記事
<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO71833180T10C23A6BE0P00/>

ぴあ（2023年5月26日）

【レポート】岡田利規×藤倉大×チェルフィッチュ『リビングルームのメタモルフォーシス』世界初演
<https://lp.p.pia.jp/article/news/274979/index.html?detail=true>

TOKYO ART BEAT（2023年6月5日）

芸術祭を巡る5月。高谷史郎、池田亮司、庭劇団ペニノ、倉田翠、チェルフィッチュ……アーティストたちが示す様々な日本＞【連載】ヨーロッパのいまを〈観光客〉として見て歩く（2）
<https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/uchino-tadashi-features-202306>



© Nurith Wagner-Strauss

より詳しいクリエーションプロセスはチェルフィッチュnoteへ！

演劇と空間の付き合い方を探る：『リビングルームのメタモルフォーシス』稽古場レポート（横堀応彦）

https://note.com/chelfitsch_note/n/n8c11b86f5916

チェルフィッチュ

チェルフィッチュ

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。2007年クンステン・フェスティバル・デザール（ブリュッセル、ベルギー）にて『三月の5日間』を上演、初めての国外進出を果たす。以降、アジア、欧州、北米、南米あわせて90都市以上で作品を上演し続けている。フェスティバル・ドートンヌ・パリ（フランス）、ウィーン芸術週間（オーストリア）など世界有数のフェスティバル・劇場の委嘱および国際共同製作による創作も多数。

近年は、スクリーンに投影された映像が人の感覚に引き起こす作用によって展示空間を上演空間へと変容させる試み〈映像演劇〉を舞台映像作家・山田晋平氏とともに始動、2018年に演劇公演／展覧会『渚・睨・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉』（熊本市現代美術館）を発表。

2021年からは、「ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト」を始動し、日本語を母語としない俳優を対象としたワークショップを実施、2023年に演劇作品『宇宙船イン・ビトゥーン号の窓』を発表。



© 宇壽山喜久子

岡田利規（演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰）

その手法における言葉と身体の特徴的な関係が注目され、2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞、同年7月『クーラー』で「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005一次代を担う振付家の発掘―」最終選考会に出場。2013年に演劇論集『遊行 変形していくための演劇論』（河出書房新社）を刊行。

2016年からはドイツの公立劇場レパートリー作品の作・演出も継続的に務める。2020年『掃除機』（ミュンヘン・カンマーシュピーレ）および2022年『ドーナ（ッ）ツ』（ハンブルク、タリア劇場）でベルリン演劇祭（ドイツ語圏演劇の年間における“注目すべき10作”）に選出。

タイの現代小説をタイの俳優たちと舞台化した『プラータナー：憑依のポートレート』で第27回読売演劇大賞・選考委員特別賞を受賞。能のナラティヴの構造を用いた『未練の幽霊と怪物 挫波／敦賀』（KAAT神奈川芸術劇場）で第72回読売文学賞・戯曲・シナリオ賞及び第25回鶴屋南北賞受賞。2021年には『夕鶴』（全国共同制作オペラ）で歌劇の演出を手がけた。

小説家としては、2007年に『わたしたちに許された特別な時間の終わり』（新潮社）を刊行。第2回大江健三郎賞受賞。2022年に『ブロッコリーレボリューション』（新潮社）で第35回三島由紀夫賞および第64回熊日文学賞を受賞。

主な受賞歴：

2005年 『三月の5日間』第49回岸田國士戯曲賞
2008年 小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』第2回大江健三郎賞
2020年 『プラータナー：憑依のポートレート』第27回読売演劇大賞 選考委員特別賞
2021年 『未練の幽霊と怪物―「挫波」「敦賀」―』
第72回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞、第25回鶴屋南北戯曲賞
2022年 小説集『ブロッコリー・レボリューション』第35回三島由紀夫賞、第64回熊日文学賞



© Alf Solbakken

藤倉大（作曲家）

大阪府生まれ。15歳で単身渡英しJ.ベンジャミンらに師事。これまでに数々の作曲賞を受賞、国際的な委嘱を手掛ける。オペラの国際評価も高く、2015年にシャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱による《ソラリス》を世界初演。20年に自身3作目のオペラ《アルマゲドンの夢》が新国立劇場で世界初演された。17年から東京芸術劇場で開催の「ボンクリ・フェス」アーティスティック・ディレクターを務める。23年に4度目となる尾高賞を受賞。近年の活動はリモート演奏のための作品発表や、テレビ番組の作曲依頼等多岐に渡る。録音はソニー・ミュージックジャパンインターナショナルやMinabel Recordsから、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版。

<https://www.daifujikura.com>

主な受賞歴：

1998年 セロツキ国際作曲コンクール優勝（当時最年少）
2004年 ロイヤル・フィルハーモニック作曲賞
2005年 国際ウィーン作曲賞（クラウディオ・アバド作曲賞）
2017年 ヴェネツィア・ビエンナーレ音楽部門銀獅子賞
2019年 『蜜蜂と遠雷』劇中オリジナル楽曲「春と修羅」第43回日本アカデミー賞優秀音楽賞
2023年 《尺八協奏曲》尾高賞（「尾高賞」4度目の受賞）

プロフィール

演奏



アンサンブル・ノマド（演奏）

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって結成。「NOMAD（遊牧、漂流）」の名にふさわしく時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。これまでにサントリー音楽財団「第2回佐治敬三賞」、及び「第3回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞。2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」を皮切りに南米やヨーロッパ、韓国や中国など世界各地の現代音楽祭に招かれている。また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、各所で訪問コンサートやワークショップを行なっている。これまで近藤譲や藤倉大、E.バスケスなどの作品集やオリジナル・アルバム「めぐるーMeguru」など20枚のCDをリリース。2015年発売の「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。

公式ウェブサイト：www.ensemble-nomad.com/

出演

青柳いづみ



©篠山紀信

2008年『三月の5日間』ザルツブルグ公演よりチェルフィッチュに参加。2007年よりマームとジブシーに参加、以降両劇団を平行し国内外で活動。近年の主な出演作にチェルフィッチュ『消しゴム山』『消しゴム森』、金氏徹平『tower (THEATER)』、マームとジブシー『Light house』『cocoon』など。漫画家・今日マチ子との共著『いづみさん』（筑摩書房）、朗読で参加している詩人・最果タヒの詩のレコード『こちら99等星』（リトルモア）が発売中。

朝倉千恵子



チェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーション、ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ『ショールームダミーズ#4』、ロロ『いつだって可らしいほど誰もが誰か愛し愛されて第三小学校』、ヌトミック『ぼんやりブルース』、市原佐都子(Q)『妖精の問題デラックス』の作品に俳優として参加。また自身でもパフォーマンスや映像作品を制作している。

川崎麻里子



©瀧野修平

1984年生まれ、神奈川県出身。ENBUゼミナール卒業後、2013年より鎌田順也主宰ナカゴに所属。主な出演はヒップホップ的手法が特徴の東葛スポーツ『パチンコ（上）』、『ユキコ』、『相続税¥102006200』、今泉力哉と玉田企画『街の下で』、ほりぶん『かたとき』など。チェルフィッチュには『スーパープレミアムソフトWパニラリッチ』、『スーパープレミアムソフトWパニラリッチソリッド』、『渚・暎・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉』に出演。

椎橋綾那



埼玉県出身。舞台を中心に活動。五代目東家三楽の弟子、富士綾那として浪曲師としても活動。チェルフィッチュには『スーパープレミアムソフトWパニラリッチソリッド』、映像演劇『風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事』、映像演劇『ニュー・イリュージョン』などに出演。

矢澤誠



©瀧野修平

1972年福島県生まれ。フリーランスで活動している。これまでに、NODA・MAP、宇宙レコード、ニブロール、カムカムミニキーナ、安藤洋子プロジェクト、遊園地再生事業団、カンパニーデラシネラ、オフブロードウェイミュージカル『リトルショップ・オブ・ホラーズ』などに出演。チェルフィッチュには『私たちは無傷な別人である』、『スーパープレミアムソフトWパニラリッチ』、『リビングルームのメタモルフォーシス』などに出演。

渡邊まな実



1993年生まれ、新潟県出身。出演作に、チェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーション、安川有果監督 作演出の舞台『ここにはいない彼女』、世田谷パブリックシアター若手演劇人育成プログラムハッチアウトシアター2021『ホーム』、黒澤優美 宮崎玲奈 ムニ『赤と黄色の夢』、那須塩原市ART369プロジェクト『わたしのまち』など。

公演概要

日程

9月20日（金）19:00
9月21日（土）14:00
9月22日（日・祝）14:00★
9月23日（月・休）14:00
9月24日（火）休演日
9月25日（水）19:00
9月26日（木）14:00◎
9月27日（金）19:00
9月28日（土）13:00／19:00
9月29日（日）14:00

★アフタートーク

◎見えない・見えづらいお客様のための「音声ガイド」を実施（要予約・日本語のみ）

上演時間：90分

受付開始は開演の45分前

開場は開演の30分前

会場

東京芸術劇場 シアターイースト

チケット

全席自由（入場整理番号付）

一般 6,000円 65歳以上5,500円

29歳以下3,500円 高校生以下1,000円

※障害者割有（要事前申込）

取り扱い

東京芸術劇場ボックスオフィス

WEB | <https://www.geigeki.jp/ti/>

電話 | 0570-010-296（休館日を除く 10：00～19:00）

窓口 | 営業時間（休館日を除く 10：00～19:00）

チケットぴあ <https://pia.jp/t/geigeki/>

イープラス <https://eplus.jp/>

ローソンチケット <https://l-tike.com/>

※ 65歳以上、29歳以下、高校生以下チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ（枚数限定・要証明書）

※ 未就学児入場不可

※ 車いすでのご来場、障害者割引、ヒアリンググループ、音声ガイドをご希望のお客様は、ご購入前に東京芸術劇場ボックスオフィスにお問合せください。

※ やむを得ぬ事情により、記載内容・公演情報等に変更が生じる場合がございます。

※ 公演中止の場合を除き、チケットのキャンセル・変更は承れません。

※ ご来場前に必ず東京芸術劇場webサイト内の注意事項と本公演の最新情報をご確認ください。

鑑賞サポート

・見えない・見えづらいお客様のための音声ガイド

（9月26日（木）14:00公演、要予約・日本語のみ）

・日本語・英語オープン字幕（全日程）

・全日程で定価より障害者10%割引（他割引との併用不可）

・車椅子スペース

・ヒアリンググループ（磁気ループ）作動

・託児サービス（有料・定員制）

・託児型ワークショップ：東京芸術祭 2024『こどもあそびシアター』（4歳—小学生までのお子様対象／有料・定員制／こどものアート体験支援型託児）

ウェブサイト（チェルフィッチュweb）

<https://chelfitsch.net/activity/2024/06/metamorphosis-tokyo.html>

クレジット

作・演出：岡田利規

作曲：藤倉大

出演：青柳いつみ、朝倉千恵子、川崎麻里子、椎橋綾那、矢澤誠、渡邊まな実

演奏：アンサンブル・ノマド

音響：白石安紀

音響スーパーバイザー：石丸耕一（東京芸術劇場）

照明：高田政義（RYU）

衣裳：藤谷香子（FAIFAI）

美術：dot architects

ドラマトウルク：横堀応彦

技術監督：守山真利恵

舞台監督：湯山千景

テクニカルアドバイザー：川上大二郎（スケラボ）

英語翻訳：アヤ・オガワ

宣伝美術：REFLECTA, Inc.（岡崎真理子+田岡美紗子）

プロデューサー：水野恵美（precog）、黄木多美子（precog）

プロダクションマネージャー：武田侑子

アシスタントプロダクションマネージャー：遠藤七海

世界初演：

クラングフォルム・ウィーン〔演奏〕、大村わたる〔出演〕、

山口真樹子〔クリエイティブ・アドバイザー〕、

アンドレアス・レーゲルスベルガー〔ドイツ語翻訳〕、

堀朝美〔ツアーマネージャー〕、

平野みなの〔アシスタントプロダクションマネージャー〕

クリエーションワークショップ：

アンサンブル・ノマド〔演奏〕、辻本達也〔カバー〕、

永見竜生〔Nagie〕〔サウンドデザイン〕

委嘱：Wiener Festwochen

製作：Wiener Festwochen、一般社団法人チェルフィッチュ

共同製作：KunstFestSpiele Herrenhausen、Holland Festival、愛知県芸術劇場、独立行政法人国際交流基金

企画制作：株式会社precog

協力：KAJIMOTO、ナカゴー、急な坂スタジオ、山吹ファクトリー、公益財団法人セゾン文化財団、d&b audiotechnik GmbH & Co. KG.

主催：東京芸術祭実行委員会〔公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会

協賛：アサヒグループジャパン株式会社